市民ワークショップの実施結果について

◆第1回：2024年5月18日（土）

指定地を見学し、原始林の現状と課題、今後の保存について考える

①室内講座　保存活用計画案についての紹介、質疑

②現地視察　野幌原始林の視察・説明、調査結果の紹介

レク森等で活動している市民ら25名程度が参加

◆第2回：2024年6月14日（金）

森林を活用した教育・レクの現場を見て、今後の活用を考える

①幼稚園実践の見学　実際の活動の様子、取り組み内容の見学

②レク森の見学　レク森での活動の現状と課題、利用コース周辺の自然の特徴の紹介

◆第3回：2024年6月30日（日）

森林再生途上の場所を見学し、今後の森林再生について考える

①追加指定地の視察　畑地跡や風倒跡地の現状の見学

②室内講座　市民グループによる市内での取り組み、道内での森林再生事例の紹介

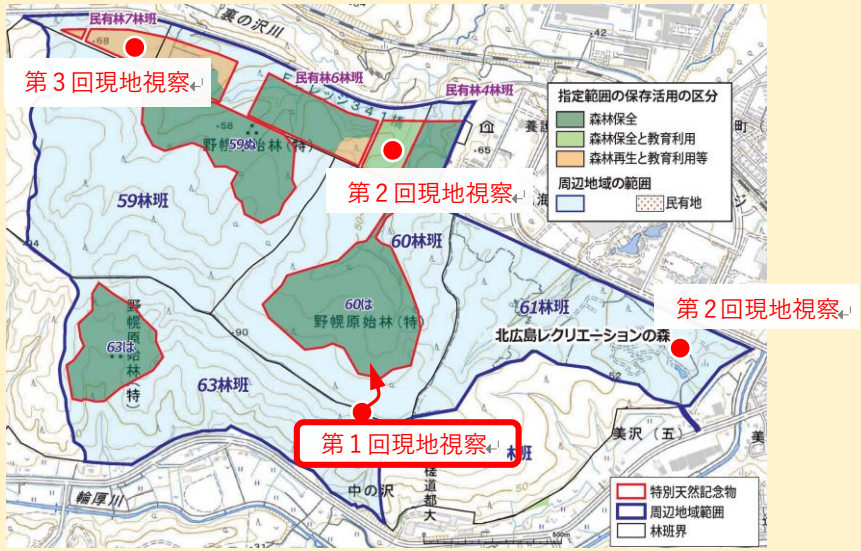
③討議・意見交換　これまでの見学等を踏まえて、計画についての意見交換

市民ワークショップの実施結果について

◆第1回：指定地見学

参加者23名（内委員2名、事務局5名）

- 樹種の構成、林床環境の観察
- 大径木の存在、トドマツの生育状況
- エゾシカの影響など

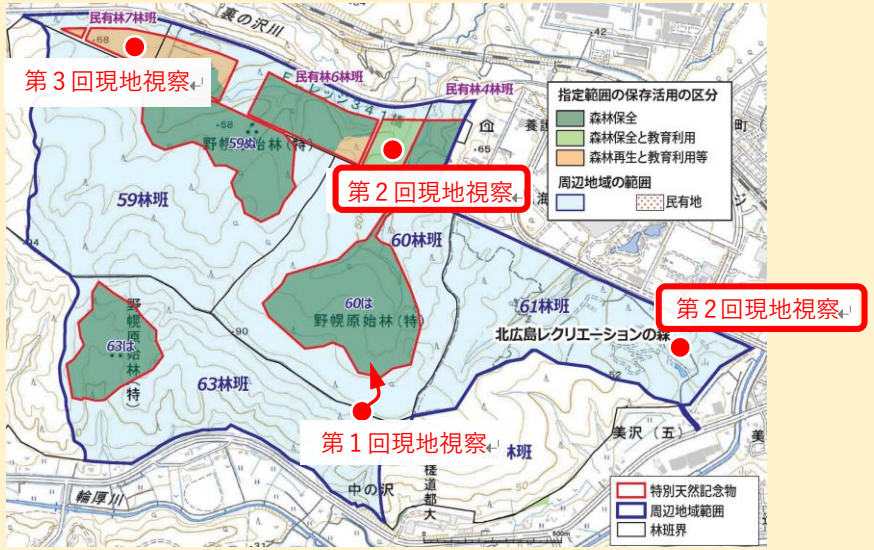


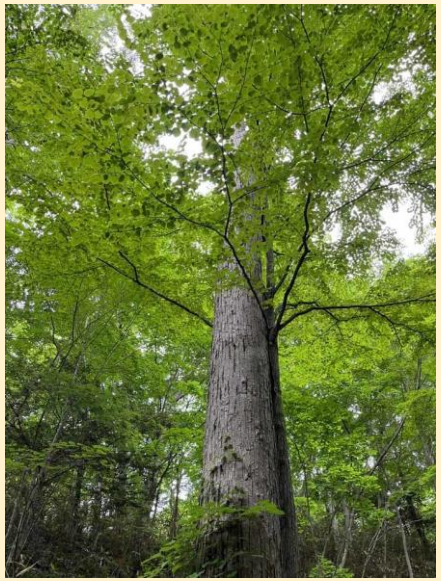
市民ワークショップの実施結果について

第2回：幼稚園・レク森

参加者26名（内委員3名、森林管理署3名、事務局5名）

- 幼稚園の取り組み内容の見学
- レク森の現況、森林や池の観察など



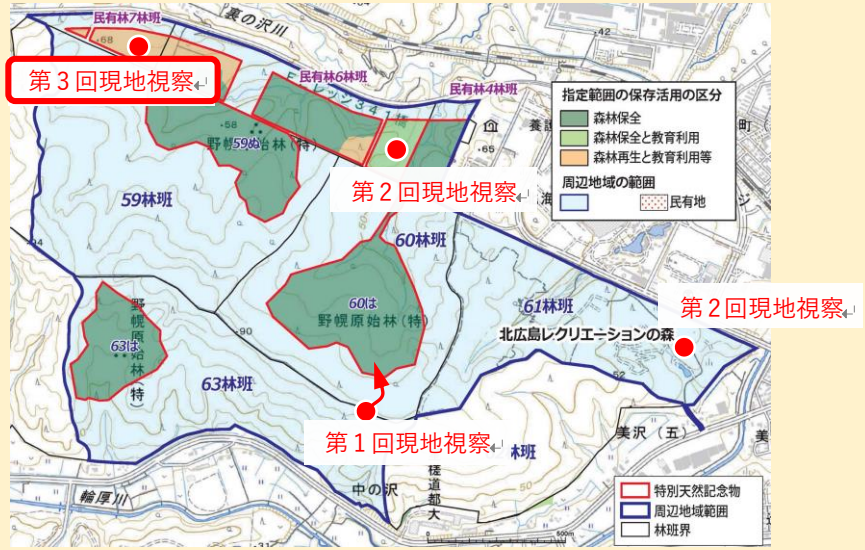


市民ワークショップの実施結果について

第3回：追加指定地非自然林

参加者23名（内委員2名、事務局5名）

- 耕作跡地・風倒跡地での更新状況の確認
- 周辺からの種子散布について
- 森林再生・森づくりの取り組み事例の紹介



市民ワークショップで出された意見等

◆保存管理の施策

モニタリング調査について

エゾシカの影響・対策について

追加指定地の非自然林の再生・活用について

◆活用の施策

広報、周知について

観察会や体験会について

市民が参加・協力できそうなこと

◆その他　計画全体について、教育活動について、市全体としての課題等

※レク森で活動している市民グループからの動植物の情報や写真を基に、計画区域の事前環境の記述を追加（2章p.10）。
動植物リストなどは資料編に追加予定。

市民ワークショップで出された意見等（保存-1）

◆モニタリング調査について

○計画の修正　施策として実施予定内容を記載する　※p.45-47

○今後の検討課題

具体的な調査の実施方法、実施間隔など

・モニタリングの内容（シカ、木の増減）、定期的モニタリング手法、エゾシカへの対応について記述すべき

・保存はモニタリングで森林再生の変遷をひたすら記録し続ける。

・定期的に調査を行う。野幌原始林の価値を伝える。

・専門家による調査と、市民参加による調査をきっちり分けて考えて、市民参加のものは重要なところでは行わない。

市民ワークショップで出された意見等（保存-2）

◆エゾシカの影響・対策について

○計画の修正　４章（2）3や表4-2で言及はあるが、やや強調する

○今後の検討課題

特に重要な問題として取り扱い、具体的対策の検討をする。

・野幌原始林の保存において、シカの問題は非常に大きいので、周知や認識の共有は重要である。放置できる状況ではないと思われる。

・対策が今すぐ必要かどうか、どこで対策をするのかを判断するために、まずモニタリング調査が必要である。

・シカの移動経路は確認されているか。自動撮影カメラで把握することも考えられる。

・シカの個体数が増加しているのかどうか、生息数調査は必要と考えられる。

・シカの影響の変化を把握するには、5年や10年間隔では不十分ではないか。

・シカ柵で囲ったり忌避剤を使用するなどの対策が必要ではないか。

・貴重なところだけでも早めに守っておくのがよいのではないか。成果が出れば、さらに広げていくことも考えられる。

・シカだけでなく、特定外来生物のアライグマの影響も心配である。

市民ワークショップで出された意見等（保存-3）

◆追加指定地の非自然林の再生・活用について

〇計画の修正　前提となるモニタリングは詳述する（p.47）

〇今後の検討課題　現時点では今後について意見が分かれており、方針も含めて検討が必要となる。①自然に任せるか、②ゾーニングして試験的に再生を試みるか。再生を試行する場合は、指定地外も含む場所の選定、手法の選定、作業支援・学習の場としての整備等も必要となる。

①畑は土を入れ直す、シカ対策など課題が多すぎる。自然の力に任すべき。

・当面観察し、手を加えず変化を見極める。人手をあまり加えず、どのように自然に戻っていくのか調査する。

②全部が難しくてもゾーニングして少しずつ実験するのがよい。小学生が使うゾーンもあったらよい。

・何もせず見守るだけではなく、お金をかけずにできる森林再生の方法や仕組みを考えて実行する体制づくりを盛り込むとよい。

・森との境目を優先させて、草刈り、シカ柵をやるのがいいのではないか。

・周辺の母樹からの自然侵入による樹木の育成。樹木が生育する手助けを人がするしくみをつくる。

〇市民に森が再生していく様を見守ってもらう見本林の場として活用する。

・指定地でもあるので、簡単に入れない方がよい。限られた作業の時のみ入る形がよい。

市民ワークショップで出された意見等（活用-1）

◆広報、周知について

○計画の修正　活用の施策の記述に一部追加する（p.51）

指定の経緯として地元住民の役割について言及する（p.19）

○今後の検討課題　活用に有効な整備について、意見も踏まえて検討する

・指定にいたる経緯などについて解説板を立てるなどして市民に周知啓発することが必要である。

・第二レスト付近に特天の変遷、意義等の説明板を設置し、その価値を市民に広く知ってもらう。

・北広島のフットパスとして、レクの森ややかましの森、西の里などを通過するコースがあると、天然記念物への関心や自然学習につながる。

・エスコンができたことで、北広島市に修学旅行生が立ち寄るようになったが、観光的な体験だけでなく、日本で最初の天然記念物についてもぜひ学習していってほしい。

・原始林の一般立ち入りは禁止を貫くかわりに、ヴァーチャルリアリティで特別の装置を使って、原始林探検が体験できるコーナーを市役所等につくる。

・原始林に生息するクマゲラなどをモチーフに、イメージキャラクターを募集し、今後のキャンペーンなどに利用する。

・「原始林動植物検定」、原始林の魅力を伝える新聞、原始林すごろくをつくる

市民ワークショップで出された意見等（活用-2）

◆指定地・周辺での観察会や体験会について

○計画の修正　活用の施策の記述に一部追加する（p.51）

○今後の検討課題　市民グループとの協働も含めて具体的に検討を進める

・１年に１回くらい市民が原始林を見れる機会があるといい。

・特天エリアの巨大木を観察できる仕組みを考えていただきたい。

・子ども達が森の変化を見られるように、遊歩道を付けられるとよい。

・自転車の駅には駐車場があり利用しやすい。利用の拠点に使える。

・レクの森は、原始林を彷彿とさせるものがあるのに、自由に立ち入ることができる。市民がもう少し自然を知ることができるような案内板等の設置があればと思う。

・野幌原始林のまわりで小中学校、大人用の森の学校を開催する（レクの森でも）。

・レクの森に原始林エリアをつくり、原始林体験できるようにする（原始林の良さを知る）。

・観光資源としてレクの森の活用。レクの森の整備、入場料、入場人数の制限。森の回復に市民がかかわる。

市民ワークショップで出された意見等（活用-3）

◆市民が参加・協力できそうなこと

○計画の修正　モニタリング調査や活用の施策で言及（p.48, p.51）

・広報のサポートをする。データやアイデアの提供。
・市民調査への継続参加。
・利活用計画の意見出し、自然環境に対する課題、要望の提出、現地調査のデータ活用。
・自然観察会、森林の大切さを知らせていく場づくり。
・原始林が残った経緯などの学習会。
・整備を市民が担う部分があっても良い。外来植物の除去などで来てもらい現状と保存を検討する。
・草刈り（レク森中央広場）への市民参加。

市民ワークショップで出された意見等（全体）

◆保存活用計画の記述についての全体的な意見

※計画全体の修正の参考とする

・森林保全地、教育利用地、森林再生地の３つがそろっていることを利用し、お互いが有機的なつながりを持つよう保全・利用する。例えば、耕作跡地はあえてその森林再生を前提としないことで自由な実験の場として使い、森林再生やシカ対策などについて得られた知見を保全地に生かしたり、情報を提供したりする。風倒木地は、稚樹の苗木利用などに。

・現代社会の多くの人が共感できるような自然保護を核にしたエコミュージアム的な理念をかかげ、その理念に沿って統一感あるハード、ソフトの保全活用の計画を立てて欲しい。

・今の時代の保全は、全体的な必要性などの考え方からきている。保護区に関する30by30の目標なども含めて考えないと今はいけない。これからの保全なので、気候変動など長いスパンで考えるべき。

・特別天然記念物としての文化的価値が保全されている状態の具体的な森林構成や生態系のあり方のイメージを示す。

市民ワークショップで出された意見等（その他-1）

◆その他、教育活動、実践の場を見ての感想・意見

・幼児のうちから自然の中で学ぶことが素晴らしい。自然の中で育てたいと思う親たちの考え方に共感。

・子ども達がいきいきと活動していた。子ども達は森の楽しさをしっている。

・近年教育現場などで聞かれる「生きる力」という言葉がお題目ではない教育目標となり、実践がされていると思いました。

・早期からの森林教育の重要性。市の教育にも活かしていければ。

◆教育活動の展開について

・自然教育ととらえれば、自然をトータルに体験し学べる環境。レクの森だと体験できるが特天エリアだと入れないのでそもそも体験できない。自然を多面的に捉え指導できる指導者の存在。

・各団体の横のつながりの促進ができるとよい。年１回でもハブになるものがあれば。エコミュージアムの役割が重要である。

・卒園後の小学生向けにも何か場が欲しい。中学については受け入れ実績がある。

・活用時の森への影響は心配である。モニタリング時に専門家に同行するなどする。

・広島幼稚園との情報交換や協力体制により、他の教育機関や市民を巻き込んで自然の教育効果を共感しあい、自然保護活動の推進力とする。

市民ワークショップで出された意見等（その他-2）

◆その他、市全体としての課題など

・ソーラー、市街地周辺の開発加速、狭い北広島の脆弱な自然が虫食いのように失われていくことに対して、条例等で今以上に保全できる仕組みが必要。

・やかましの森に隣接して「水辺の広場」がある。非常に良い自然が一部残っているので、原始林とともに考えたい。保存は周辺一帯を一体化していくことが重要。

・池の近くにクリンソウが生えていたが、草刈りされてしまっていてショックである。中央広場でもツルリンドウが草刈りされており、ピンクのテープをつけて注意してもらっている。他の公園でも同様で、市に伝えたら対応してくれたが、作業員まで伝わりにくい。ちゃんと伝える体制が必要。

・この地域の里山を残したのは市民参加で残したようなものであり、歴史的経緯を大事にしたい。

・市の担当者のみならず、連携体制をしっかり確立して森林を守る必要がある。

パブリックコメントで出された意見等（1）

◆実施期間　7月1日～7月31日

◆周知方法

　　市広報７月号、公式LINE、市HPに掲載

◆ウェブ閲覧数　220

◆意見提出件数　３件

※意見④については市外からの提出であったため、市民参加条例に基づくパブリックコメントには該当せず、上記件数には含まれないが、一般の意見として受理し、パブリックコメントの意見と同様に計画の参考とした。

◆意見①

貴重な自然であり、もっと知ってもらうことが必要

観光サポーター等で支援したい

⇒ 周知面は課題としており、取り組みたい

パブリックコメントで出された意見等（2）

◆意見②

　北広島レクリエーションの森をアーバンスポーツの場にしないこと。研修棟等の施設の改修・整備。

　⇒ レクの森は保安林としての規制があり、自然環境に配慮した活用を図りたい。計画では森林とふれあう場としてレクの森を活用した取り組みをあげている。現状については所管部署と連携・情報共有したい。

パブリックコメントで出された意見等（3-1）

◆意見③-1

「非自然林」の用語は一般的ではなく、計画内容の正確かつ具体的な表現を求める。この用語は「非自然」の林という誤解を生む。

⇒ 「現在自然林ではない状態＝本質的価値を有していない場所」を一括して表記するために使用している。その旨を定義として最初に示すようにする。（１章 p.3）

現状・課題・施策の記述では、具体的な状態から「人工林・風倒跡地」と「耕作放棄地」に分けて詳述している。この構成についてより分かりやすくなるように、用語や構成を調整したい。

パブリックコメントで出された意見等（3-2）

◆意見③-2

　既指定地周辺の指定地外のトドマツ人工林の風倒の影響について、現段階から保全策を準備しておく必要がある。斜面上方に位置するため、土砂流出などの影響が生じる可能性が高い。

　⇒ 周辺地域が指定地の森林環境を保全していくために重要であることは本計画でも指摘し、施策としても記述している（p.47）。

　周辺地域の指定解除後約50年においても、指定地における大規模な土砂流出や外来植物の侵入は生じていないが、留意している。

パブリックコメントで出された意見等（3-3）

◆意見③-3

　調査委員会の調査結果の公開を求める。今後計画を実効あるものにするため、科学委員会的組織によるモニタリング調査と評価を望む。

　⇒ 令和2-4年度の調査成果は、会議資料としてウェブ公開されている。今後の調査成果も含めた詳細な調査結果についても、今後公開していくことを検討する。

　今後の計画の見直し・評価については、4章に示したように、エコミュージアムセンターを中心に取り組み、取り組みの審議・評価は北広島市文化財保護審議会にて行う。（p.53-54）